

令和長崎

農水産業

長崎の魚の海外への販路拡大

問 おさかなサブスクの冷凍技術を活用して、本市の魚の販路を海外まで拡大する考えはないか。

答 おさかなサブスクは、漁業者の所得向上を図るため、首都圏の消費者に新鮮で種類豊富な長崎の魚を定額で届けるビジネスモデルであり、本市は金融機関などとともに実証に至るまでの伴走支援を行っている。現在、この取組は実証段階であり、事業化まで一定期間を要するものと認識しているが、今後の商品設計に向けては、海外市場を視野に入れることも想定される。



▲おさかなサブスク

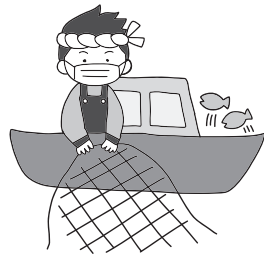
ただし、海外へ販路を拡大するには、水産物の商品開発以外にも、マーケティング調査や販売促進活動を進める必要があると考えるため、関係機関と連携し、事業者の検討段階に応じて適切な支援に努めていきたい。

農水産業

長崎大学水産学部との連携と関連企業の誘致

問 本市は当学部が取り組んでいる研究などと、どのように連携しているのか。また、大学の研究には育成の観点からどのような認識を持っているのか。さらに、水産関連の企業誘致の取組について伺いたい。

答 当学部の技術や研究成果、人材を本市の水産業に生かすことは重要であると認識しており、本市の水産振興計画の施策検討では助言をもらっている。また、今後の水産海洋産業を見据え、新たな養殖の形と技術創造に向けた取組の市内養殖業への展開について、大学と連携しているほか、養殖魚の生産試験では漁協、大学と共同実施を検討し、人材育成の面では、水産センターで学生の実習を受け入れている。なお、新たな水産関連事業者の県内進出については、事業者のニーズを把握しながら、大学、関係機関と連携して支援、誘引を図っていく。



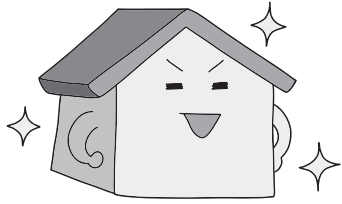
日本共産党

住まい

住宅リフォーム制度

問 ながさき住みよ家リフォーム補助金をより多くの市民に利用してもらうため、予算を拡充する考えはないか。

答 住宅の居住環境改善などを目的とした、ながさき住みよ家リフォーム補助金は、住宅のバリアフリー化や省エネ化などを目的とした住宅性能向上リフォーム補助金と合わせて、令和3年度は、1億1500万円の予算を計上し実施している。なお、両補助金ともに年度途中で予算額に達していることから、市民のニーズが高い状況であることは認識しているが、住宅に係る施策は、空き家対策や定住支援、市営住宅の改善など、取り組むべき課題が多数あるため、市民のニーズや建設業界の状況、住宅施策の優先度などを勘案した上で予算を計上したところである。



スポーツ

アーバンスポーツの振興

問 JR長崎本線の高架下の活用など、アーバンスポーツができる場所の整備について、検討状況を伺いたい。

答 アーバンスポーツとは、スケートボードや3人制バスケットボールなど、若い世代を中心に浸透している都市型スポーツである。スケートボードなどのスポーツができるスペースをJR長崎本線の高架下に確保できないか検討したが、橋脚の間隔が狭いことや、騒音による住環境への影響も懸念されることから、適地とはならないと判断している。また、長崎南北幹線道路の計画では、平和公園再整備基本計画検討委員会において、スポーツ施設の再配置が議論されており、アーバンスポーツに関しても道路の高架下空間を活用できないか議論されている。いずれにしても、利用者のニーズや課題等を把握し、今後の市内中心部のまちづくりの状況等を踏まえ検討していく必要があると考えている。

